

授業概要

明治20年代から昭和5、60年代までの日本近代文学の展開を講義する。江戸文学の伝統を引き継ぎつつ、西洋から様々な文学の概念、方法を摂取して日本の近代文学が展開されていった様相を捉える。自然主義、鷗外・漱石、耽美派、白樺派、プロレタリア文学、モダニズム文学といった主要な文学の潮流を押さえながら、それらに対する通念的な理解を相対化しつつ、新しい近代文学史の把握を提示する。個々の作家についても、やはりこれまでの理解に修正を加えつつ、より実相に即した像を捉えていきたい。

授業計画

第1回	ガイダンス、明治初期の文学：啓蒙文学と政治小説
第2回	明治中期の文学：坪内逍遙・二葉亭四迷の試み
第3回	明治中期の文学：『文学界』と硯友社
第4回	明治後期の文学：自然主義の台頭
第5回	明治後期の文学：鷗外と漱石
第6回	大正前期の文学：白樺派と耽美派
第7回	大正前期の文学：『新思潮』と私小説
第8回	大正後期の文学：プロレタリア文学
第9回	大正後期の文学：モダニズム文学
第10回	昭和戦前の文学：転向文学
第11回	昭和戦中の文学：戦争と作家の表現
第12回	昭和20年代の文学：無頼派と大家の復活
第13回	昭和20年代の文学：戦後派
第14回	昭和3、40年代の文学：戦後世代の作家たち
第15回	昭和3、40年代の文学：第三の新人
第16回	期末試験の実施

到達目標

- ・自然主義、耽美派など、近代文学における様々な潮流とその特徴を語るができる。
- ・近代文学に現れた潮流が、それぞれの時代社会的背景とどのように関連し合っているのかを説明できる。

履修上の注意

- ・とくに日本文学の素養などは求められないが、近現代の文学に対する興味を持っていることが望ましい。
- ・毎時間欠かさず出席すること。

予習・復習

・予習はとくに必要ではないが、かならず授業内容を見直し、重要な固有名や概念などを銘記するようにすること。

評価方法

- ・期末試験（100%）により評価する。

テキスト

- ・教員が毎回プリントの資料を配布する。市販の文学史のテキストなどはとくに使用しない。